



5th University Scholars Leadership Symposium

第 5 回国際学生リーダーシップシンポジウム

A Leadership Programme in Social Change

Dream it. Plan it. Do it.

August 1 to 7, 2014 | Phnom Penh, Cambodia

In Partnership with the Ministry of Education of Cambodia

(後援：カンボジア文部省)

The University Scholars Leadership Symposium

カンボジアのプノンペンで開催される第 5 回国際学生リーダーシップシンポジウムは、NPO 法人 Humanitarian Affairs UK によって開催されております。

私たち Humanitarian Affairs は、持続可能な社会を目指し、次世代を担うリーダーの育成に取り組んでいます。国際的な仲間と共に、リーダーとしての経験を積ませ、社会を変革させる大きな可能性を引き出します。

第 5 回国際学生リーダーシップシンポジウムでは、全世界から傑出した 1000 人の学生を募集します。国際機構や高等教育機関との連携によって、参加者に素晴らしい学びの機会を提供いたします。世界的な貧困や、震災の被害に合った方々に向けた社会支援を、参加者自身の取り組みにより、実現させていきます。



Humanitarian Affairs

Humanitarian Affairs UK は、世界で解決が求められる様々な問題に対して貢献する、グローバル精神を持った世界レベルの人材育成のため、社会貢献活動やトレーニングを青少年に対して提供しています。

プログラムを通して成長を遂げた青少年が、社会の様々な問題と向き合い、それらの問題を解決する力となることを信じています。私たちはそこで得られる感情が、瞬間的なものでなく、世界的貧困に向けた責任感として、長く続くことを強く願っています。

Humanitarian Affairs UK は、ロンドンに事務所を置く NPO・NGO 団体です。イングランド並びにウェールズで 1985 年に定められた企業登録法によって、正式に登録されています。（登録番号：6582565）

Humanitarian Affairs Asia は、タイに事務所を置く Humanitarian Affairs UK のアジア支部です。こちらでは例年開催される USL シンポジウムをはじめとする多くのイベントを、アジア太平洋地域で開催しています。

Humanitarian Affairs は、世界 NGO 組織 World Association of Non-Governmental Organizations (WANGO)、国連グローバル・コンパクト United Nations Global Compact、ボランティア活動のための国際協会 International Association for Volunteer Effort (IAVE) ならびに、市民社会の世界的連合組織 World Alliance for Citizens Participation (CIVICUS) の一員となっています。



Phnom Penh Symposium 2014

2014年8月1日から8月7日に渡って開催されるプノンペンシンポジウムでは、持続可能な社会を目指した1,000人の青少年を集めます。世界に混在する貧困や飢餓に対して強い志を持った、若きグローバルリーダーたちとネットワークを構築する最高の機会となるでしょう。

Humanitarian Affairs UKは、世界各国からの参加者がこのシンポジウムを通して新たな社会支援の知識を身につけることに加え、「世界代表」として参加することで得られる「経験」と「ネットワーク」こそ、最も重要であると認識しています。今回のプノンペンシンポジウムでは、参加者の創造力を養い、向上心の高いリーダーを育成することを目指しています。

全ての参加者には、社会貢献活動を実際に体験してもらい、そこで得たリーダーシップを帰国後それぞれの舞台で発揮、グローバル人材として世界で貢献することを願っています。





Speakers

Geraldine Cox- AUSTRALIA

Geraldine 氏は、1970 年からオーストラリアの外務省でキャリアを始めました。彼女の最初の派遣先は、ベトナムとの戦時下にあった、カンボジアのプノンペンでした。そこで彼女は初めて、戦争を経験することになります。

彼女は 1987 年に辞職した後、8 年間シドニーのマンハッタン銀行で働き、1996 年、彼女はカンボジアで暮らし始めることを決めました。

1993 年に、戦争によって孤児となったカンボジアの子どもたちを尋ねた経験が、一度も忘れることができなかつたのです。その体験こそが、「Children's Villages」という施設を設立するきっかけとなりました。

彼女の体験は、マクミラン出版によって、「Home Is where The Heart」として自伝化され、さらにその原作に基づき、ハリウッドで映画が作成されました。

そのドキュメンタリー映画、「My Khmer Heart」は、2000 年ハリウッドのドキュメンタリー映画大賞を獲得し、ディスカバリーチャンネル等のテレビ局でも放送されました。彼女の住むオーストラリアでは何度も特集が組まれ、その後何年にも渡って彼女の物語が紹介され続けました。





Robin Lim-USA

Robin 氏は、インドネシアのバリに住む恵まれない母親たちのために、健康管理方法や伝統的な出産技術を促進したことで、2011年 CNN Hero of the Year を受賞しました。

彼女は人生で大切な3つの命を失いました。彼女の助産師であった Sunny 、彼女の親友であった Brenda、そして彼女の妹の Christine。彼女達は、胎児を出産することができず、亡くなってしまいました。その悲しい経験から、彼女は出産法について研究しようと自らを奮い立たせたのです。

彼女は悲しみを乗り越え、周りで苦しんでいる多くの女性の為に、自分の人生を費やすことを決めました。彼女は家族とともにインドネシアに移住し、女性とその赤ちゃんの為に安全な出産の環境を整備する挑戦を始めたのです。ロビン氏は自身が妊娠している間も、安全な出産技術を探し求めました。

そしてついに、NPO 団体「Healthy Mother Earth Foundation」を設立。家族や友人の助けを受けながら、ようやく彼女の夢は叶ったのです。設立当初は、ロビンの自宅で妊婦検診を行うことから始まり、十分なお金がないためにそのようなサービスが受けられなかった多くの人々が、彼女の団体のケアを受けられるようになりました。

今では彼女は、その無償の出産治療サービスによって、Ibu Robin として多くの人々に知られています。





Pamela Wigglesworth-USA

Pamela 氏は、開発コンサルタントとして多大な影響力をもった演説家の 1 人です。

彼女はアジアで 20 年以上に渡り、ブランド化やマーケティングのコミュニケーション技術を向上させるため、様々な企業団体と連携してきました。彼女は特に、プレゼンテーション技術やコミュニケーションスキル、自己効力感を高めることに定評があります。

彼女のトレーニングでは、ゲーム形式で楽しく知識を身につけることに最も重きをおいています。彼女の溢れる情熱と、そのコミュニケーション能力に触れた参加者は、多くが「自身のスキルを大幅に向上させることができた」と語ります。

彼女はこれまで Regent Business School や、ラッフルデザイン研究所、Asian Centre for Professional Excellence など、ビジネスの講義を行いました。さらに、国連開発計画の一環として、ブータンにある様々な起業に向けた、事業開発トレーニングも行っています。

彼女は Asia Professional Speakers の一員で、2011 年から 2012 年にかけては副会長を務めていました。他にも米国商工会議所や、Primetime、Professional Women's Association といった様々な団体でも重要な役割を果たしており、彼女が寄稿した多数の記事は、様々な新聞や雑誌に掲載されています。





Pushpa Basnet - NEPAL

Pushpa Basnet は、2012 年 CNN Hero of the Year を受賞したネパール出身の女性です。

彼女がケアする子どもたちは全て、両親が刑務所で監禁されていたという経歴を持っています。若干 21 歳の頃から 7 年間に渡って、彼女は Children's Centre を経営し、教育、食事、医療ケアを与えてきました。彼らの親が罪人であったという悲しい背景を少しでも乗り越え、他の子どもたちと変わらぬ生活を送ってもらうようにするためです。

Pushpa はビジネスで成功を収める裕福な家庭で育ちましたが、彼女は大学で社会貢献のための勉強をすることを決めていました。

ある時彼女は女性刑務所を訪問し、そこで大変な衝撃を受けました。それはそこに監禁された母親達の子どもが、刑務所で母親と共に暮らしていたということです。刑務所施設を歩いていると、子どもたちは彼女に無邪気な笑顔を見せるのでした。その時彼女は、「この子どもたちを刑務所施設から出し、本当の居場所へと戻してあげよう」という強い意志に掻き立てられたのです。

彼女が初めて刑務所施設を訪れ、その 2 ヶ月後、彼女はデイケアセンターを設立しました。当時扱っていた子どもはわずか 5 名ほどでした。平日の朝決まった時間にセンターへと連れて行き、教育を施し、午後になると彼らの母の下へと帰します。

彼女の取り組みは、2 年後 "Butterfly Home" と呼ばれるまでに大きく成長し、Pushpa と共に 40 人の子どもたちがセンターで暮らしました。彼女の深い愛情と指導によって育てられた子どもたちは "Mamu" と呼ばれます。

いまだにネパールの刑務所で暮らしている子どもの数は、80 人に及びます。彼らを Mamu として社会復帰させるための彼女の挑戦は、今でも続いています。





Francis Kong - PHILIPPINES

Francis 氏は、フィリピンで最もインスピレーションを与えているカリスマスピーカーです。彼は Maximum Impact of Atlanta Georgia や、Ziglar Corporation in London といったリーダーシップ育成プログラムを経て、指導者としてのライセンスを獲得しました。

彼は Success Options Publishing Company の代表を務め、工業関係の小売業でキャリアをスタートしました。数々の有名チェーン企業の共同設立者として成功を収めてきた彼の経験値は、彼のスピーチをより印象付ける要因となっています。

彼のビジネスにおけるコミュニケーション能力とリーダーシップについては、週間ビジネス誌のコラム The Philippines Star や、Channel News Asia of Singapore によって大賞を獲得した 14 の本によって語られています。また、数々の TV メディアもその活躍について取り上げ、彼の努力し続ける姿勢は多くの人々の尊敬を集めました。

Francis 氏が大切にしているモットーがあります。それは、スピーカーやライターといった職種に関わらず、家族の一員という立場でも、他者を引き込む力「Inspiring excellence」がすべての人に備わっているということです。





Programme Highlights

Workshops (ワークショップ)

持続可能なプロジェクトや、コミュニティを構築するためには、まず参加者がイニシアチブを持ってリードしていく人物でなければなりません。そこで、今回のプノンペン USL シンポジウムでは、**Workshop** を通して、社会支援のための自己啓発や、リーダーシップの育成に力を注いでいきます。

代表者はそれぞれのセッションの中から自分が参加するワークショップを選択します。それぞれのテーマごとに3つのワークショップがあり、その中から2つを選択することができます。

社会支援のためのリーダーシップを学ぶワークショップ

- ・社会起業家として原点となること
- ・*Humanitarian Affairs* の事後活動支部を設立
- ・社会奉仕活動をはじめよう





A Voice in Social Change

私たちは、青少年のアイデアや希望が、社会において前向きな変化をもたらすものと信じています。

Humanitarian Affairs は、世界中の青少年リーダーが生み出す革新的なアイデアを共有するための機会を提供します。

青少年が生み出したアイデアを実現させるために、私たち **Humanitarian Affairs** は、UNESCO と提携し、6~9 ヶ月間に渡ってプロジェクトを実行するための資金（最高 **5,000\$**）を提供します。

Learning Journey

Learning Journey は、1週間にかけて開催される USL シンポジウムで、その1日を占めています。**Learning Journey** では、恵まれない環境で育つ子どもたちと共に1日を過ごし、社会支援のフィールドにおいてより確かな理解を得ることが狙いとしています。参加者は、シンポジウムを通して学んだことを、社会支援のプロジェクトとして実践する機会が与えられるのです。

Learning Journey は、USL シンポジウムにおいて、まさに心臓部と呼ぶことができるでしょう。参加者は、子どもたちが参加者に対して人生観を変える経験を与えてくれたということに、このプログラムを通して気付くことができるはずです。**Learning Journey** は、その活動が終わった後に、参加者の心に優しくも強く訴えかける、忘れることのできないイベントとなるのは間違いありません。





Why Join The USL Symposium?

あなたは、この世界をよりよくしたいという情熱を持っていますか？

世界中の貧しい人々を救うためのビジョンを持っていますか？

次世代を担う若者のロールモデルとして、人々に影響を与える存在になりたいと持ったことはありませんか？

カンボジア・プノンペンで開催される USL シンポジウムでは、そのような情熱にあふれた世界中の青少年とネットワークを構築できます。

世界をより良いものに変化させる、その変化の主体者になりたいのならば、このシンポジウムは見逃すことの出来ない絶好の機会となるでしょう。

私たち Humanitarian Affairs は、あなたが持っているビジョンや情熱をより具体化し、実現させる為のお手伝いをいたします。

みなさんの意志をこのシンポジウムに集約することが、世界を変える大きな一歩となるのです。



Humanitarian Affairs は、学生であること問わず、独創力をより深く身につけたいという強い意思を持った方であれば、どんな方でもこのシンポジウムに参加することを奨励いたします。特に以下の内容に属している方にとって、USL シンポジウムは絶好の機会となるでしょう。

- ・NPO やNGO でリーダーとして活動している方
- ・社会事業でリーダーとして活動している方
- ・社会支援組織で活動している方
- ・社会的責任 (CSR) に関心のある方
- ・公務員職員
- ・社会起業家
- ・国際ボランティアリーダー
- ・ユースリーダー
- ・ボランティア団体で顧問として活動している方
- ・ボランティアリーダーを目指している方
- ・よりよい社会の変化を目指す方

Becoming Our Delegate

申 込 方 法

全ての志願者は、申し込み用紙を記入し、こちらが行う選抜審査を合格する必要があります。審査に合格し、参加が認められた方は、参加登録費用をお支払いください。参加にあたっては、いくつかのプランがございます。

| | 全日程参加 (個人での申し込み) | 全日程参加 (3人以上のグループでの申し込み) ※1人あたりの金額 | 宿泊を除いたシンポジウムの参加 (食事込み) |
|------------------------------|---------------------|-----------------------------------------|---------------------------|
| 早期登録 (2014年5月31日までの申し込み) | USD 835 | USD 800 | USD 600 |
| 一般登録 (2014年6月1日から7月20日まで) | USD 900 | USD 835 | USD 667 |
| | | | |
| 6泊 ツインルーム でのご宿泊 | ✓ | ✓ | |
| ラーニング・ジャーニーへの参加 | ✓ | ✓ | ✓ |
| 6食の朝食と5食の昼食、コーヒーブレイク代 | ✓ | ✓ | ✓ |
| 記念Tシャツ | ✓ | ✓ | ✓ |
| ゲスト講義とワークショップ | ✓ | ✓ | ✓ |
| ネットワークセッション | ✓ | ✓ | ✓ |
| 公式プログラムにおける 移動交通費 | ✓ | ✓ | ✓ |
| 修了証明書 | ✓ | ✓ | ✓ |

※次世代の青少年リーダーの育成を目的としているため、参加者の対象年齢は18歳から30歳としておりますが、この年齢層に属さない方も、参加することが可能です。オブザーバーとしての参加になる場合もありますので、詳しくは申し込みの際に担当にご相談ください。
※空港から宿泊施設、ならびに宿泊施設からシンポジウム会場への交通手段、参加者自身が個人で予約した宿泊施設でのトラブルにつきましては、こちらで手配する以外は責任を負いかねますのでご了承ください。



Our Outstanding Delegates

Angelica Casado (Australia)

Angelica は、パタヤで開かれたシンポジウムに影響をうけ、途上国への支援活動を始めました。タイの貧しい地域への食料支援の為に、五千オーストラリアドルを超えた金額を寄付し、彼女はメキシコで開かれた世界サミットで、彼女のリーダーシップと社会への貢献を認められ、オーストラリアで唯一の賞を与えられました。

Holly Ransom (Australia)

Holly は、マレーシアのムラカで開催されたシンポジウムに参加して、青少年をサポートする社会起業家となることを決めました。青少年の限りない可能性や、革新的なリーダーシップに注目し、非営利の活動を進めています。

Brandon Louise Medrano (Philippines)

Brandon は、パタヤで開催されたシンポジウムに参加した後、社会に貢献する仕事を行いたいと考え、在学する大学で、青少年に対して投資を行う Humanitarian Affairsの団体を設立しました。彼のリーダーシップのもと、わずか1日で21,800本のペットボトルを回収することに成功し、それらをリサイクルして集めたお金によって、2011年タイフーンの被害にあったフィリピンのイザベラ州にある学校に、171点の椅子を寄付しました。

Ibrahim Olouch (Kenya)

Ibrahim は、第1回、第2回と連続してUSLシンポジウムに参加し、アフリカの3カ国にHumanitarian Affairsの支部を設立しました。最近では、持続可能な社会についてアフリカの青少年に理解してもらうため、トレーニングキャンプを企画・運営しています。



Teresa Seminara (Canada)

2011年5月、Teresa は、彼女の支援活動と、設立した支援団体を讃えられ、ケベック政府より勲章が与えられました。2010年に、マレーシアのメラカで開催されたシンポジウムに参加したことが、彼女に大きな影響を与えました。

Laura Sykes (Australia)

Laura にとって、USLシンポジウムはまさに人生観を変える大きな経験になりました。彼女が参加したUSLシンポジウムは、人道的な問題をより深く学び、社会変革に向けてチャレンジするきっかけとなったのです。彼女がシンポジウムで得た学びを共有することも、彼女にとっての大切な役割でした。彼女は、共通のビジョンを持った同世代の仲間、そして世界を巻き込み、人道的な問題を解決するための方法について学ぶための運動を始めたのです。

Katie Blundy (Australia)

Katie の情熱は、USLシンポジウムに参加することで、さらに強いものとなりました。彼女は、自分が持つ能力を発揮し、南アフリカで持続可能な生活を創り出すための文化ツアープロジェクトを計画したのです。その地域の人々により可能性を与え、利益を生み出すことを目指したものでした。



Messages from the Colleges

From Dr. Johnny O. Cabanias

私はオブザーバーとして、タイのパタヤ、インドネシアのバリで開催された USL シンポジウムに参加しました。オブザーバーとしての立場ではありませんでしたが、私にとってそれは大変素晴らしい経験となりました。

参加した世界の代表者は、シンポジウムで身につけたリーダーシップを発揮し、それぞれの地で活躍しています。インドネシアのデ・ラ・サル・ヘルス・サイエンシズ・インスティテュートでは、着々と準備が進められています。第5回の USL シンポジウムでも、たくさんの「夢」が生まれることでしょう。皆様が参加されることを心からお待ちしております。

Dr. Johnny O. Cabanias

Director for Academic Services

De La Salle Health Sciences Institute, Philippines

From Mr. Severino P. Pader

学術教員として第3回の USL シンポジウムに参加したことは、私にとって人生そのものです。USL シンポジウムでは、国籍、宗教、人種…全てが異なる人々が一堂に集い、活動します。愛を与えること、シェアすること、思いやること、協力すること…これらの共通の精神によって、言語や文化の壁を乗り越え、私たちが1つになることが実現されるのです。

このシンポジウムでは、新しい知識を学び、素晴らしい仲間に出会い、友好的な関係を築き、様々な大学から参加する代表青年とネットワークを構築することが出来ます。また魅力に溢れた開催地を訪れることもまた、かけがえない経験となることでしょう。

私の願いは、よりたくさんの人々が「学び」や「体験」をシェアし、さらに素晴らしい経験を獲得することです。この絶好の機会を逃さないください。2014年のプノンペンシンポジウムをみなさんの力でさらに魅力的なものにしていきましょう。

Mr. Severino P. Pader

VP Administration, Student Services

Technological Institute of the Philippines



From Asst. Prof. Dr. Prinya Thaewanarumitkul

リーダーとなる為に、最も大切なこととは何でしょうか。これは「リーダーになる為にはどうすればよいか」、「リーダーに求められたスキルが何であるか」といったことではなく、「それぞれが持つリーダーシップをより伸ばしていくものは何か」ということです。

私の考えでは、私たち自身ではなく、さらに重要な私たちの社会のために何が出来るかといった、より広い世界について考えることが、その問題を考える上で重要であると思います。

「私たちの社会」とは、それぞれの国だけではなく、このグローバル化したコミュニティー、そして私たち全人類まで拡張して考えるべきなのです。

バリでのシンポジウムは、リーダーとなるためのスキルだけではなく、社会的な責任についてもまた、次世代を担うリーダーに提供することに成功しました。私たち暮らしや社会をよりよいものにし、より多くの人々を助けるためにリーダーシップを役立たせようとする姿がそこにはありました。

さらに大切なことは、このシンポジウムで得られる経験とは、社会の問題を解決する為に、実際に行動することに基づいた教育であるということなのです。私にとって最も印象的なのは、参加者すべてが互いに学び合うことができたということでした。学生だけでなく、私自身もまた、関わり合いの中で楽しみながら学ぶことができました。

バリでのシンポジウムは、ここ数年間で私が参加したシンポジウムの中で最も楽しく、有意義なシンポジウムであったと断言できます。

From Asst. Prof. Dr. Prinya Thaewanarumitkul
Vice Rector for Student Affairs
Thammasat University, Thailand



Links & Contacts

Symposium Website: www.universityscholars.org.uk
Official Facebook Page: www.facebook.com/UniScholars
Email Inquiries: maylene@humanitarianaffairs.org

LONDON Secretariat (ロンドン事務所)
40 Bloomsbury Way
London WC1A 2SE
United Kingdom
Tel : +44-20-7404-4142

ASIA Secretariat (アジア事務所)
28/43-44, Moo. 2 Najomtien Sattahip
Chonburi 20250
Thailand
Tel : +66-38-235-038